

第2回開成町庁舎整備基本構想等策定委員会資料

平成26年9月17日

2. 庁舎整備の基本理念

1. 基本理念

開成町は田園風景や緑、水といった豊かな自然環境に恵まれたまちです。新しい庁舎は、町民の生命と財産を守る防災の拠点であると同時に、この豊かな自然環境のなかで町民が主役となってまちづくりを担う地域のシンボル、つながりの拠点として、日常、非常時含めて町民生活をサポートする機能を果たしていく重要な役割が求められます。

町民の安全と安心を支援するとともに、ひとと自然が調和した庁舎を基本理念として、庁舎整備を推進します。

—ひとと自然が調和した「安全・安心」の庁舎—

2. 基本的な考え方

庁舎整備は、現庁舎が抱える課題を踏まえたうえで、基本理念の実現に向けて5つのコンセプトにより検討を進めてまいります。

①安全・安心の拠点となる庁舎

防災拠点として、災害時においても災害対策本部として庁舎機能が継続でき、かつ災害復興の拠点としての役割と機能を担う庁舎

② 町民に開かれた庁舎

協働のまちづくりを推進するために、町民交流や町民と職員が気軽にコミュニケーションできる開かれた庁舎

③地球環境にやさしい庁舎

環境への負荷を低減し、自然エネルギーの導入を積極的に進め、省エネルギー、**創エネルギー**、省資源・リサイクル資源対策の**ゼロ・エミッション**モデルとなる庁舎

④町民に親しまれる庁舎

周辺環境に配慮し、まちのシンボルとして「開成町らしさが感じられる」町民に親しまれた庁舎

⑤効率性が高く長く使える庁舎

行政需要の変化など将来の町民サービスの変化に対応できる柔軟性や建物の維持更新のしやすさに配慮することで長寿命化し、**ライフサイクルコスト**を低減した庁舎

①安全・安心の拠点となる庁舎

日常的に町民が利用する施設として、耐震性が高く、長期に渡り安全かつ安心して利用できる庁舎整備を行います。さらに災害時にも町の「業務継続」が行える防災拠点となる計画とします。

また町民の情報管理や安心して利用できる施設として防犯性にも配慮します。

○高い耐震性をもつ100年建築を目指して

想定される大地震等の大規模な災害に対しても、長期に渡り耐えられる耐震性の高い建物とし、災害時においても町民が安全に利用できるように基本的な機能を維持できるようにします。



防災センターイメージ

○防災拠点機能の強化

地震や風水害、火災などの災害時に各地区の被災状況を的確に把握し、地域の防災組織や関係機関と連携して、速やかに対応できる災害対策本部機能を強化します。

被災後、開成町地域防災計画にある応急活動の救援期までの初動期間の3日間の応急活動業務が継続できる機能を確保します。



防災備蓄倉庫イメージ

○安全性、防犯性の向上

事故の未然防止や被害の低減に配慮した安全な施設とします。入退庁管理や情報管理など庁舎の防犯に配慮します。

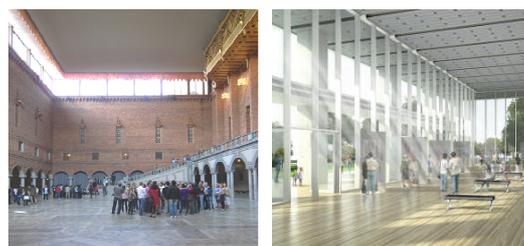
②町民に開かれた庁舎

第五次開成町総合計画にある町民主体のまちづくりには、町民と議会、行政の協働が重要となります。「町民の参画と協働」を実現するため、町民が気軽に利用できる活動の場の提供や、情報発信の拠点となる機能をもった計画とします。また町民が最も利用する窓口空間は便利で使いやすい空間づくりを目指します。

○町民が気軽に利用できる場の設置

内外とも自然光をとり入れた明るい空間とすることで、親しみやすく気軽に立ち寄れる交流スペースを設置します。

またこのスペースで町民・職員が交流し「協働」の場となるよう両者が利用できる機能（飲食機能等）をもたせます。



交流スペースイメージ

○情報の発信と共有

行政から町民への情報開示をより推進し、情報の共有に努めるとともに、町民同士の情報交流ができる場を設置します。



情報コーナーイメージ

○窓口サービスの向上

町民利用の多い窓口は低層階に集約し、「歩かせない」「迷わせない」「待たせない」ワンストップ窓口サービスを計画します。

③地球環境にやさしい庁舎

自然が豊かな開成町は、将来的にもこの豊かな自然環境を次代に伝えることが重要です。省エネルギー技術や創エネルギー技術などを積極採用し、**ゼロ・エミッションを目指すことで**、周辺環境への負荷の低減に努め、豊かな環境との共生を図ります。

○地域特性への配慮

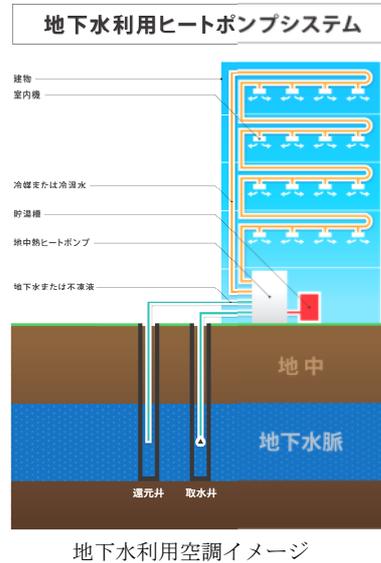
恵まれた水資源を考慮し、水力や水の特性を利用した新エネルギーの採用を検討し、整備します。

○省・創エネルギーによるゼロ・エミッション化

太陽光発電やマイクロ水力発電などの創エネルギーの最大化を図り、自然採光や自然通風、高効率な設備機器による消費エネルギーを最小化することでゼロエミッションを目指します。

○環境教育の場の提供

町民の環境に対する意識を高める場として、環境への配慮をアピールする計画とします。



④町民に親しまれる庁舎

町民が郷土に対する愛着を深め、誇りがもてるまちのシンボルとなる「開成町らしさ」が感じられる庁舎を目指します。またさまざまな町民に親しまれるよう年齢、性別、国籍にかかわらず利用しやすい「ユニバーサルデザイン」を採用します。

○周辺景観との調和

豊かな自然に囲まれた景観の保全に努めるとともに、庁舎周囲の近隣に配慮した計画とします。



水路の景観



あじさい風景

○歴史や地域性の表現

開成町にある歴史的な建築物や開成町特有のまちの景観（あじさいなど）を取り入れた表現とします。

○利用しやすくわかりやすいユニバーサルデザイン

子供からお年寄り、障がいのある方など多様なニーズに対応したバリアフリーを前提に、利用者がわかりやすいサイン計画、動線計画となるユニバーサルデザインを取り入れた施設とします。



ユニバーサルデザイン（サイン）

⑤効率性が高い永く使える庁舎

町民ニーズの多様化に伴う組織再編、行政需要の変化や今後の情報化に対応できるようフレキシブルに対応できるスペースやさまざまな共用ができる多機能スペースを設定することで、効率化を図ります。また維持更新のしやすい計画とすることで永く使える庁舎とし、建物のライフサイクルコストの低減に努めます。

○フレキシブル対応できるスペースの設置

町民への対応がやすく、組織再編時の変更にも対応できるオープンフロアを基本として計画します。



オープンフロアイメージ

○情報通信技術の有効活用

町民サービスの向上に向けた情報通信環境の変化に対応できるOAフロア化や無線LAN環境整備等を検討します。



情報通信技術の活用イメージ

○共用可能な多機能スペースの設置

打ち合わせスペースの共用化や休会時の議場スペースの一般利用など検討し、無駄がなく効率的な計画とします。

○長寿命化によるライフサイクルコストの低減

100年建築を目指す上で、建物をスケルトン（構造体）・インフィル（諸室、設備機器等）に分離して計画することで、維持更新がしやすい計画とし、建物の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減を目指します。